

キャブネット・みやぎ Newsletter



No.58

2021年10月10日

コロナ禍での活動休止のお詫び

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言、または蔓延防止重点措置が全国各地で発出され、仙台、宮城でも一時は感染が深刻な状況になりました。

キャブネット・みやぎの活動は実質的に35名ほどのボランティア相談員が活動の要になっております。当団体は活動に係る実働対価や交通費の実費支給もなく、活動に関わる人の篤志に支えられています。

活動に伴う感染対策については昨年度から「宮城県新型コロナウイルス感染症対策児童虐待・DV等支援体制強化事業補助金」の交付を受け、活動の拠点となる事務局の感染対策や母親グループ、あるいは役員会議のオンライン開催のための通信機器の整備等を行いました。

こうした対策を講じる中でも地域での感染の拡大は止まりませんでした。

感染拡大に伴う「巣ごもり」の状況は家庭内での親子のストレスを高めているという問題も指摘され、垣根の低い電話相談等の機能は重要であり、できるだけ活動を継続するにはどうすればよいのか、団体内部でも協議をしました。

しかし最終的には活動を担ってくれる相談員の感染リスクを考え、苦しい決断でし

たが、以下の通り、活動を一時休止とさせていただきます。

【電話相談活動休止期間】

- ① 2021年4月20日～5月6日
- ② 2021年8月20日～9月30日

【電話相談担当者減数対策】

- ① 2021年3月29日～4月19日
- ② 2021年5月7日～5月11日

【母親グループ オンライン実施】

2021年8月26日～9月9日

【楽になりたい子育て講座の中止】

2021年5月（6セッション）

2021年10月現在、全国的に新規感染者数は減少の一途をたどっていますが、ウイルスの変異等で第6波はあり得ると言われています。

キャブネット・みやぎでは今後も緊急事態宣言時等には活動の一時休止、蔓延防止重点措置発令時等では活動一部変更もやむを得ないと考えております。

キャブネット・みやぎの事業を活用いただいている皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

寄稿エッセイ 新型コロナウイルスと虐待

事務局 鈴木 俊博

《地球への虐待》

「人新世」（ひとしんせい、じんしんせい）という言葉 皆さんは御存知でしょうか。オゾンホールの研究でノーベル化学賞を受賞したドイツ人のパウル・クルツェンが提唱した地質学上の新しい時代区分名称です。

この区分名称は「代」、「紀」、「世」に分かれていて、現在私たちは「新生代・第四紀・完新世」と言われる時代に生きています。恐竜が生きていた中生代のジュラ紀は有名です。

この「完新世」に代わる新しい時代区分として「人新世」が提唱されているのです。

では「人新世」とはどんな時代なのでしょう。

200年前の産業革命をきっかけに産業構造の急激な変化によって大量生産、大量消費に拍車がかかり、鉱物資源や森林を人が貪るように地球から剥ぎ取り、そのエネルギー消費によって地球の二酸化炭素濃度が上がり、気候や生態系に大きな影響をもたらしていることが問題になっています。これが正に「人新世」時代です。

人は言わば母なる地球を虐待してきたのかもしれません。

人類の歴史の中で縄文時代と言われた時期は1万年も続きました。稲作が始まる弥生時代の前であり、狩猟生活が中心で、人が人を支配したりされたりしない平和な時代と言われています。考えてみて下さい。1万年という時のゆったりした流れを。

人の生活や文化がゆっくり進化する様を想像するだけで癒やされる思いがします。

この大河のような1万年に対して、ここ200年の人類の生活と文化の急激な変化は、まるで滝のような落差です。

シベリアの永久凍土が温暖化によって溶けると、凍土の中で仮死状態だった病原菌が活性化して人に感染する。これはフィクションではありません。シベリアのヤマル半島で2016年、炭疽菌による感染症で男児が死亡しました。研究者によると、この炭疽菌は75年前に死亡した鹿の死体で生きていたのです。同年に起こった熱波の後、鹿の体が埋まっていた永久凍土が溶け、閉じ込められていた病原菌の胞子が大気中に放出されたのが原因とされています。

細菌だけではなくウイルスという微生物も凍土の中から発見され、蘇生することが証明されています。

先進国の私たちが享受している快適さは、私たちの見えないところで命に関わる代償を払うまでに至っているのです。

人類は地球という生き物の扱いを間違ってしまったのです。英語のabuse（虐待）はab（間違った）、use（扱い）です。不適切に扱う代償は、一時的に見えないふりはできてもやがて自然災害や、パンデミックという形で人類に襲いかかっているというのは言い過ぎでしょうか。

2021年9月23日にニューヨークで国連気候行動サミットが開催されました。ここでスエーデンの16歳の少女が地球温暖化に対して「時間がなくなりつつある。しかし、まだ手遅れではない」と演説しました。ロシアのプーチン大統領はこの少女を「社会はもっと複雑であることをこの少女に教えていない大人の責任だ」と評しています。

「裸の王様」という寓話は人間の愚かさの現実とそれを変えていく希望を表しています。

2021年4月～2021年9月
活動報告

毎週木曜日母親グループ
毎月第2土曜日相談員定例会



2021年
4月

- 2日 仙台市子供相談支援センター職員研修 講師派遣
- 10日 運営委員会
- 24日 相談員オンライン研修
- 27日 宮城県新型コロナウイルス感染症対策児童虐待・DV等
支援体制強化事業補助金事業 現地調査

5月

- 4日 子どもの村東北 職員研修 講師派遣
- 29日 運営委員会

6月

- 3日 仙台市保護児童対策地域協議会 代表者会議
- 12日 第22期 キャプネット・みやぎ総会開催
- 14日 みやぎ被害者支援センター職員研修 講師派遣
- 25日 宮城野区保護児童対策地域協議会 実務者会議
- 29日 若林区要保護児童対策地域協議会 実務者会議
青葉区宮城総合支所保護児童対策地域協議会 実務者会
太白区要保護児童対策地域協議会 実務者会議
- 30日 個別訪問面接

7月

- 2日 青葉区要保護児童対策地域協議会 実務者会議
- 13日 富谷市児童虐待防止連絡協議会 実務者会議
- 17日 チャイルドラインみやぎ 相談員養成講座 講師派遣

8月

- 4日 宮城県光明支援学校職員研修 講師派遣

9月

- 18日 運営委員会（オンライン）
28日 宮城総合支所 児童虐待に係る専門的助言 講師派遣

会員更新 ご寄附 ありがとうございます。

2021年4月～2021年9月 順不同 敬称略

2021年4月～7月入会・更新・ご寄付者一覧

敬称略

<個人会員>

栗原千枝子 荒中 内田正之 大塚憲治 加藤純二 浅野孝雄 安部紀司 官澤里美 蛭名隆三 佐々木誠治 齋藤一枝 千葉敏子 佐藤わか子 金澤貴彦 羽土理恵 山田かつ子 真山裕子 中野憲司 池田正代 大内真理 横山浩之 立野美菜子 丸山水穂 遠藤克子 小畑良幸 齋藤永子 畠山光有樹 久保徳高 鎌田茂斗子 今泉倫子 岡田美穂 橋本昭浩 及川艶子 佐藤佐知子 若生幸子 堺武男 古久保和子 石川恵 佐藤和枝 阿部郁夫 小野藤子 田中恵美子 古積路子 小野敦子 小野精華 三星亜子 松田雅子 佐藤ますみ 渡邊京子 福島かずえ 根元こづえ 菅原ゆり 佐藤京子

<団体会員>

鳴子こども園

<特別会員>

田中千鶴子 特定非営利活動法人仙台ダルク・グループ 大沼セツ子

<維持会員>

加藤裕子 松浦弘子 及川千恵子 渡辺美来 齋藤智子 高木ひろ子 太田洋子 善積則子

<法人会員>

東北会病院

<ご寄付>

カトリック亙理教会オリーブの会 志賀野宏 畠山光有樹 久保徳高 鎌田茂斗子 橋本昭浩 佐藤和枝 善積則子 松本理恵 渡辺未来 森田実 泉大沢シニアタウン

子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ
〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平 1-5-20-5F
半澤・村松法律事務所内
TEL/FAX 022-265-8867
mail zimukyoku@capnetmiyagi.org
URL <http://capnetmiyagi.org>